

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局	
						担当課	みどり・公園整備課	
						課長名	藤井	
事業名	地域に役立つ公園づくり事業					施策番号		
						I - 1 - (1) - ⑥		
事業概要	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指します。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげます。計画策定後は、翌年から概ね2か年で再整備を行います。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.70 人
		175,000 千円	千円				6,825 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 ワークショップ参加者の年齢層に偏りが見られるため、多世代の参加に向け、更なる努力が必要です。	見直し内容	まちづくり協議会には、町内会長や公園愛護会長のみならず、婦人会や子ども会、小学校PTAへ、参加の声をお願いします。その一方で、市でも、小学校への遊具アンケートや校区内全戸へかわら版を配布してのPR等を行い、さまざまな世代、さまざまな立場の住民の意見を吸い上げることにつとめます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 公園を身近に感じられ、積極的に活用してもらった状態にすることを目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	市民が公園を身近に感じられる状態	38 公園	20 公園			
	当事業は 地域住民とのワークショップを重ね、地域のニーズを反映させた公園を整備するため、「当事業による整備公園数」を指標とします。 (最終目標と目標年度) —					

活動計画	どうやって目的を達成するか H27年度は、2校区でワークショップを開催し、計画策定を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	計画策定校区数	2 校区	2 校区			
	毎年、各区の事業実施進捗率や街区公園の老朽化度、まちづくり活動への積極性などをもとに、複数校区を選定し、計画策定を行っていきます。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	緑政課
							課長名	柴田
事業名	子どもの安全・成長に配慮した公園整備事業						施策番号	
							I - 1 - (1) - ⑥	
事業概要	遊具などの公園施設を活用して、子どもが健やかに成長し、また、犯罪等に巻き込まれない安全・安心に配慮した公園となるよう、専門家の意見を聞きながら、公園整備を進めています。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人	(人件費備考)	
		36,000 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 犯罪が公共空間(道路、公園等)で起きているため、死角を生むような樹木の撤去や、公園を見守る大人の目を増やすことなど、犯罪に強い環境づくりが必要です。	見直し内容	防犯の専門家や地域の方々とワークショップを行いながら、公園利用者が安全・安心に利用でき、子どもが元気に遊びながら、成長していける公園整備に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 子どもの体力が増進され、安全・安心に利用できると感じられる状態にすることを旨とします。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民が公園を安全・安心に利用できると感じられる状態	-	3 公園		
	子どもが犯罪に巻き込まれず、安全に遊ぶため、死角を生むような樹木等の剪定・撤去や、大人の目が届きやすいように遊具を配置するとともに、公園を見守る大人を増やすような環境づくりを推進するため、「当事業による整備公園数」を指標とします。 (最終目標と目標年度) —				

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成27年度は、1校区において安全点検やワークショップを行い、計画策定に取り組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	計画策定校区数	-	1 校区		
	関係部局と連携を図りながら、地域住民や大学などと協働で安全点検やワークショップを行い、計画策定を行っていきます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	水環境課
							課長名	関川
事業名	河川改修事業の推進						施策番号	
							II - 1 - (4) - ④	
事業概要	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進します。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人	(人件費備考)
		1,759,350 千円	千円			86,500 千円	係長 1.50 人	
							職員 8.00 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 今後も引き続き、用地の確保や関係機関との調整に努め、浸水対策に効果的な整備を行っていきます。	見直し内容	整備箇所毎に最も経済的な方法を検討し、事業の重点化・効率化に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市内全域	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 浸水被害の低減 河川毎に計画している降雨(1時間で50~70mm程度)に対応できる状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 河川整備率100% 平成45年度	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標	単年度目標設定なし	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか	H21、22の豪雨により浸水被害が発生した河川の重点的な整備をはじめ、優先度の高い河川について護岸工事等を行い、河川整備の進捗を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 河川整備率 河川の拡幅や河床の掘削等を行い、河川整備率を上げることにより、治水対策を進めます。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標	81 % 83 %	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	緑政課
							課長名	柴田
事業名	健康づくりを支援する公園等整備事業						施策番号	
							II - 2 - (3) - ④	
事業概要	公園に高齢者の健康増進に配慮した健康遊具を設置し、運動教室を開催して、利用者に使い方を説明します。 継続的にこの健康遊具を利用することにより、高齢者の体力増進に繋がります。 また、ウォーキングを通じた健康づくりをサポートする路面表示などを実施します。						<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
							()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.10 人	
		16,000 千円	千円		3,650 千円	係長	0.10 人	
							職員	0.20 人
							(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 高齢者の健康増進のため、健康遊具の利用促進につながるよう努めます。	見直し内容	運動教室や普及員の養成などを行い、健康遊具の利用促進に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 主として高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 健康的な高齢者が住まう社会	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	健康遊具を設置した公園で運動教室を行う公園数 保健福祉局と連携し、高齢者の健康増進につなげるため、運動教室を行った公園数を設定しています。また、健康遊具の使い方を知る市民を増やし、身近な公園で自発的な健康増進活動が行われていく社会を目指します。 (最終目標と目標年度) 30公園 平成36年度	2 公園	10 公園		

活動計画	どうやって目的を達成するか 各区に健康遊具(7種)を設置する拠点公園を整備します。保健福祉局と連携して、公園に配置した健康遊具を利用して、高齢者向けの運動教室を行います。運動教室の中で、地域の方々に健康遊具を効果的に利用してもらい、高齢者の健康づくりを推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	高齢者に配慮した健康遊具の設置公園数 各区に健康遊具(7種)を設置する拠点公園を整備し、高齢者の健康増進につなげていきます。	2 公園	1 公園		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路計画課
							課長名	喜洲
事業名	ボランティアネットワークの推進(道路サポーター)						施策番号	
							Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業概要	市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化などのボランティア活動を行う地域の団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援します。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	<small>(事業費備考)</small>	目安の金額	課長		0.05 人
		17,810 千円	千円		9,400 千円	係長		0.17 人
							職員	0.95 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	代表的な成果指標について、延べ登録団体数は、概ね目標を達成していますが、団体の登録解除により、活動を行っている登録団体数は、微増となっています。今後は、市主体のPRだけでなく、より効果的な方法を検討していく必要があります。	見直し内容
		道路サポーター制度の運営に関する新たな仕組みを導入し、活動団体による主体的な運営を促すとともに、区毎に道路サポーター活動団体が交流・連携のために集まり、身近なところでの新規活動団体の結成促進を図ります。また、現在活動中の団体がより活動しやすい支援ができるように検討を行います。	

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を) 環境美化ボランティア活動	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 道路、公園、河川のボランティア活動を行うこと、団体相互の情報交換や活動の共有化(ネットワーク)を行うことで、事業のさらなる発展と本市の美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	道路サポーター加入団体数	196 団体	220 団体			
	美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図るためには、道路サポーターの加入団体数が増加することが望ましいため、加入団体数としました。※年度末時点の団体数					
	(最終目標と目標年度)	—				

活動計画	どうやって目的を達成するか 今年度は、昨年度に引き続き、清掃活動等の支援(清掃用具や花苗の支給など)をNPO法人に委託します。また、活動団体の交流・連携を図る目的で総会を開催します。道路サポーター活動団体で構成される「北九州市道路サポーターの会」では、区会を設置して、身近なところで活動団体同士で話し合い、活動団体自らが課題解決を図ります。また、区会で培われる横の連携により脱退を抑制するとともに、新規加入団体を掘り起こします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	道路サポーター活動団体結成促進のためのPR活動等	予定通り実施	実施			
	エコライフステージへの出展や、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、道路サポーター活動について市民の方に興味を持っていただき、道路サポーター活動団体の結成促進につながるよう努めます。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	公園管理課
							課長名	菊山
事業名	ボランティアネットワークの推進(公園愛護会)						施策番号	
							Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業概要	10名以上の地域住民で組織されるボランティア団体で、公園の美化活動・公園施設の点検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくり・市民花壇づくりなどを行い、活動面積に応じて活動費を助成しています。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								(人件費備考) 課長 0.24 人 係長 0.45 人 職員 1.45 人 (人件費備考)
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.24 人		
		45,428 千円	千円		18,135 千円	係長 0.45 人 職員 1.45 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	高齢化により解散する団体も多く、H26.3時点では1,158団体ですが、今後も公園愛護会の活動について市民の方に関心を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながるよう努めます。	見直し内容 公園愛護会活動についてのPRや積極的な表彰、表彰の推薦を行い、結成促進に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 街区公園の維持管理	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 公園の清掃や除草などの維持管理について、地元等で結成されている公園愛護会と協働による事業の実施を図るため、公園愛護会の結成促進を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	公園愛護会団体数	1,158 団体	1,160 団体		
	高齢化、少子化、さらには経済不況などの影響に伴い、ボランティア活動を行う団体の解散もあることから、全体の結成数を現状維持とし、H27年度時点で1,160団体を目指します。 (最終目標と目標年度) —				

活動計画	どうやって目的を達成するか 公園愛護会へ助成金の交付を行い、清掃や除草等の活動を支援します。エコライフステージに出展し、道路サポーターや河川愛護団体とともに公園愛護会の活動を紹介します。熱心な活動団体の各種表彰への推薦を積極的に行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	公園愛護会結成のためのPR活動等	予定どおり実施	実施		
	エコライフステージへの出展や、都市緑化祭での市長表彰の実施、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、公園愛護会活動について市民の方に関心を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながるよう努めます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	水環境課
							課長名	関川
事業名	ボランティアネットワークの推進(河川愛護団体)						施策番号	
							Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業概要	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、美化活動を広げます。また、美化活動に参加することにより、地域の河川を身近に感じ、自分たちの川として愛着を持つような啓発活動へとつなげていきます。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								コスト
	2,420 千円	千円		1,480 千円	係長 0.05 人			
					職員 0.10 人			

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 後継者不足から活動を断念する団体もあり、これを引き留めるのは難しく、団体数の単純増加を期待することは困難です。しかしながら今後も、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。	見直し内容	市ホームページにおける河川愛護啓発欄の充実や、エコライフステージをはじめとしたイベントにおける河川愛護活動の宣伝の強化等により、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、新規団体結成の促進を図ります。また、河川功労者表彰やエコライフステージの様子等を公表し、既存団体の河川愛護活動のモチベーション維持を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 地域の河川を身近に感じてもらい、美化活動を広げていきます。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	河川愛護団体数		67 団体	69 団体		
	河川における美化活動を広げるためには、地域での意識を高めるために、身近な団体を作り、情報発信を行う必要があります。 (最終目標と目標年度) 72団体 平成30年度末					

活動計画	どうやって目的を達成するか ・河川愛護団体へ補助金の交付を行い清掃や除草等の活動を支援します。 ・エコライフステージに出展し、道路サポーターや公園愛護会とともに河川愛護団体の活動を紹介しします。 ・永年に渡って熱心に活動に取り組まれている愛護団体や会員の方を、福岡県の河川功労者表彰などへ積極的に推薦しています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	河川愛護団体結成促進のためのPR活動等		予定どおり実施	実施		
	エコライフステージへの出展や、福岡県河川功労者表彰への積極的な推薦により、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	緑政課
						課長名	柴田
事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり					施策番号	
						Ⅲ - 1 - (2) - ①	
事業概要	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくりまします。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めています。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めています。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)
		100,023 千円	千円		23,150 千円	係長 0.70 人 職員 2.00 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 ①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ	見直し内容	①公共花壇の配置及びデザインの見直し ・小倉駅周辺など主要花壇の拡大と修景効果の低いフラワーポットの一部廃止 ・宿根植物の使用による植替え経費の削減 ②土地取得の強化

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) ①市内各所 ②都市内の緑	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育てていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 公共花壇及び市民花壇の面積	上段:25年度実績 下段:26年度実績 44,693 m ²	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	公共花壇及び市民花壇は市民が一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協力で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 46,587m ² 平成27年度		46,587 m ²		
	特別緑地保全地区の買収面積	2,572 m ²			
	特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度) —		16,973 m ²		

活動計画	市民花壇においては市民との協力を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 花づくりに関する講座の開催	上段:25年度実績 下段:26年度実績 10 回	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。		10 回		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	みどり・公園整備課
						課長名	藤井
事業名	地域に役立つ公園づくり事業					施策番号	
						Ⅲ - 1 - (2) - ①	
事業概要	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指します。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげます。計画策定後は、翌年から概ね2か年で再整備を行います。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人
		175,000 千円	千円		6,825 千円	係長	0.10 人
					職員	0.70 人	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 ワークショップ参加者の年齢層に偏りが見られるため、多世代の参加に向け、更なる努力が必要です。	見直し内容	まちづくり協議会には、町内会長や公園愛護会長のみならず、婦人会や子ども会、小学校PTA へ、参加の声をかけをお願いします。その一方で、市でも、小学校への遊具アンケートや校区内全戸へかわら版を配布してのPR等を行い、さまざまな世代、さまざまな立場の住民の意見を吸い上げることにつとめます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 公園を身近に感じられ、積極的に活用してもらった状態にすることを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	市民が公園を身近に感じられる状態 当事業は 地域住民とのワークショップを重ね、地域のニーズを反映させた公園を整備するため、「当事業による整備公園数」を指標とします。 (最終目標と目標年度) —	38 公園	20 公園		

活動計画	どうやって目的を達成するか H27年度は、2校区でワークショップを開催し、計画策定を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	計画策定校区数 毎年、各区の事業実施進捗率や街区公園の老朽化度、まちづくり活動への積極性などをもとに、複数校区を選定し、計画策定を行っていきます。	2 校区	2 校区		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	水環境課
						課長名	関川
事業名	身近に自然を感じる河川整備事業					施策番号	
						Ⅲ - 1 - (2) - ③	
事業概要	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境などへの配慮が不足し、河川は人工的な水路のようになってしまいました。 そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことによって、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っています。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.50 人
		138,000 千円	千円		48,250 千円	係長	0.50 人
						職員	5.00 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 護岸工事を行う際には、積極的に環境に配慮した整備を行っています。今後も、より一層環境に配慮した護岸の整備の進捗を図ります。	見直し内容	今後もより一層、環境に配慮した護岸の整備を行い、市民が身近に自然を感じられる河川整備事業に取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 河川	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ホタルなどの生物の生息・成育環境に配慮した整備を行うことによって、自然を身近に感じる河川を取り戻します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	環境に配慮した護岸整備	-	単年度目標設定なし		
	護岸工事を行う際には、生態系に配慮した整備を行うことで、自然を身近に感じる状態を目指します。 (最終目標と目標年度) -				

活動計画	どうやって目的を達成するか 河川整備を行う際に、限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標
	環境に配慮した護岸整備延長	34,700 m	34,900 m
	護岸整備を行う際に、生物の生息・生育環境となっている水際部を保全・復元するなど、生物に配慮した護岸の整備を進めます。		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	道路計画課
						課長名	喜洲
事業名	バリアフリーのまちづくり					施策番号	
						Ⅲ - 1 - (3) - ②	
事業概要	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるよう、道路・公園のバリアフリー化を行い、バリアフリーのまちづくりを進めます。具体的には、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの設置などのバリアフリー化を行います。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		951,600 千円	千円			26,150 千円	係長 1.00 人 職員 2.00 人
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	本市の高齢化率は政令市の中で最も高い状況となっています。急速な少子高齢化の進展に対応するため、バリアフリー化の推進は、今後も重要な取組となってくることから、着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容
			着実な取組ができるよう、「北九州市のまちづくりネットワーク(障害者団体)」との連携を今以上に強化し、効率的な事業進捗が図れるように取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	高齢者や障害者などを含めた全ての人	バリアフリー新法にも対応した、よりきめ細かな歩道のバリアフリー化に取り組み、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	主要駅周辺地区の主要経路の整備率	88 %	90 %		
	主要駅周辺の主要経路についても、「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」等との意見交換を踏まえ、整備を行っていることから、整備率を指標とします。				
	(最終目標と目標年度) 100% 平成32年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」等と協議や現地点検を重ねながら、歩道のバリアフリー化の整備向上を図ります。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	歩道整備延長	5.1 km	4.5 km			
	歩道設置や歩道のバリアフリー化を行った整備延長					
	主要駅周辺のバリアフリー特定経路の整備延長	0.3 km	0.3 km			
主要な駅の周辺において、公共施設や病院などを結ぶ主要な道路を主要経路と定めて、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの連続誘導などのバリアフリー化を進めます。						

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局											
						担当課	道路計画課											
						課長名	喜洲											
事業名	通学路の安全対策					施策番号												
						Ⅲ - 1 - (3) - ②												
事業概要	登下校中の児童が交通事故に巻き込まれず、安全に安心して通学できる環境を整えるため、教育委員会や学校関係者、警察と一体となって、さらなる通学路の安全対策を推進します。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()											
							コスト <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 10%;">事業費</td> <td style="width: 15%;">27年度当初予算額</td> <td style="width: 15%;">27年度執行額</td> <td style="width: 15%;">(事業費備考)</td> <td style="width: 10%;">人件費</td> <td style="width: 10%;">目安の金額</td> <td style="width: 10%;">課長 0.10 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">805,000 千円</td> <td style="text-align: right;">千円</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">26,150 千円</td> <td>係長 1.00 人 職員 2.00 人</td> </tr> </table> (人件費備考)					事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人												
	805,000 千円	千円			26,150 千円	係長 1.00 人 職員 2.00 人												

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成24年4月以降、全国各地で登下校中の児童等が死傷する交通事故が連続して発生したことを受け、緊急合同点検を実施するなど通学路における交通安全の確保に取り組んでいます。今後も、さらなる対策の改善・充実等の取組を継続して推進する必要があります。	見直し内容 取組が着実かつ効果的に実施できるよう、教育委員会や警察などの関係機関と連携して引き続き積極的に取組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	登下校中の児童等	通学路において児童等が安心して安全に登下校できる状態			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	通学路の危険箇所における対策完了箇所数	165 箇所	単年度目標設定なし		
	平成24年度に実施した通学路の緊急合同点検以降、学校から改善の要望があった危険箇所に対して、効果的な対策を検討し、実施していきます。(最終目標と目標年度)	—			

活動計画	どうやって目的を達成するか 教育委員会、学校、PTA、警察などの関係者とこれまで以上に連携を図りながら、効率的・効果的な対策を推進します。	活動の状況 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	歩道整備延長	3.1 km	3.0 km		
	歩道の新設や拡幅整備を行った延長				
	防護柵設置延長	0.9 km	2.0 km		
歩車道の境界部などに設置した防護柵の延長					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路計画課
							課長名	喜洲
事業名	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進						施策番号	
							V - 1 - (2) - ①	
事業概要	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進します。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								(人件費備考)
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	目安の金額	課長	1.00 人	(人件費備考)	
		1,681,791 千円	千円	61,500 千円	係長	2.00 人		
				職員	4.00 人			

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	小倉都心部及び黒崎副都心部の駅前整備は、まちの賑わいづくりを進めるうえで重要な取組であるため、この後も着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容 取組が着実かつ効果的に実施できるように、地元団体やJR九州等の関係者と連携して引き続き積極的に取組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 小倉都心・黒崎副都心地区	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 小倉駅及び黒崎駅南北の回遊性強化をはじめとし、更なる活性化、賑わいづくりを推進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	公共交通結節機能の強化	-	単年度目標設定なし			
	黒崎駅南口で収容しきれない機能を、北口に転換するため、黒崎駅北口駅前広場と一体となって自由通路を整備することで、黒崎駅周辺の交通結節機能の強化を図ります。それにより、自由通路利用者数が約2000人増加します(平成24年度比較)。(最終目標と目標年度)自由通路利用者数平成24年度比約2,000人増平成30年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか 賑わいづくりの推進を図るため、地元団体、JR等の協力を得ながら、協議を密に行い、まちづくり整備を進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標
	事業の進捗率(黒崎駅南北自由通路、黒崎ペDESTリアンデッキルーフの整備)	7 %	70 %
	黒崎駅における南北自由通路及びペDESTリアンデッキルーフ整備の円滑な進捗に努めます。		
	事業の進捗率(小倉駅南北自由通路のリニューアル)	5 %	51 %
	老朽化した天井の張替等に併せて、小倉駅南北連絡通路のリニューアルを行います。		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	河川整備課
						課長名	清水
事業名	巨過地区まちづくりに資する河川整備事業					施策番号	
						V - 1 - (2) - ①	
事業概要	長年市民に親しまれている巨過市場をさらに魅力ある商業拠点とするために、地元と協働で巨過地区まちづくり整備計画を策定し、神嶽川の治水安全度を高める、河川事業を推進します。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.30 人	(人件費備考)
		402,000 千円	千円		16,950 千円	係長 0.60 人 職員 1.00 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 巨過地区まちづくり整備計画の策定にあたり、市場関係者が約200名と多数であり、権利形態や営業形態が複雑であるうえに、市場関係者の中で意見がまとまっていないなど、合意形成に向けて課題があります。	見直し内容	円滑な合意形成を図るため、北九州市と市場代表者及び小倉都心まちづくり関係者で整備計画(素案)の検討委員会を設立し、整備計画の素案を取りまとめました。 平成27年度には整備計画を策定します。 また、河川の改修においては市場対岸(馬借地区)の護岸工事に着手します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 巨過市場	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 安全・安心で、さらに魅力ある市場とするために、神嶽川の改修と河川上空を市場として利用する巨過市場の再整備に着手します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	神嶽川(巨過地区)の治水安全度向上	-	-		
	概ね50年に一度発生する降雨にも対応できるよう、神嶽川(巨過地区)の治水安全度向上を目指します。				
	(最終目標と目標年度)	-			

活動計画	どうやって目的を達成するか	より魅力ある巨過市場の整備に向け、地元や関係機関(福岡県等)と協議を重ねます。 ※福岡県: 神嶽川の河川管理者	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	巨過地区まちづくり整備計画の策定状況	-	策定		
	平成27年度の巨過地区まちづくり整備計画策定に向け、巨過地区まちづくり整備計画(案)を地元と協働で策定します。				
	神嶽川の改修	-	100m		
	平成27年度は、市場対岸(馬借地区)の護岸工事に着手します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路計画課
							課長名	喜洲
事業名	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進						施策番号	
							V - 1 - (2) - ②	
事業概要	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進します。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 1.00 人	(人件費備考)	
		1,681,791 千円	千円		61,500 千円	係長 2.00 人 職員 4.00 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	小倉都心部及び黒崎副都心部の駅前整備は、まちの賑わいづくりを進めるうえで重要な取組であるため、この後も着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容 取組が着実かつ効果的に実施できるように、地元団体やJR九州等の関係者と連携して引き続き積極的に取組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	小倉都心・黒崎副都心地区	小倉駅及び黒崎駅南北の回遊性強化をはじめとし、更なる活性化、賑わいづくりを推進します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	公共交通結節機能の強化 黒崎駅南口で収容しきれない機能を、北口に転換するため、黒崎駅北口駅前広場と一体となって自由通路を整備することで、黒崎駅周辺の交通結節機能の強化を図ります。それにより、自由通路利用者数が約2000人増加します(平成24年度比較)。(最終目標と目標年度)自由通路利用者数平成24年度比約2,000人増平成30年度	-	単年度目標設定なし		

活動計画	どうやって目的を達成するか	賑わいづくりの推進を図るため、地元団体、JR等の協力を得ながら、協議を密に行い、まちづくり整備を進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	事業の進捗率(黒崎駅南北自由通路、黒崎ペDESTリアンデッキルーフの整備)	7 %	70 %		
	黒崎駅における南北自由通路及びペDESTリアンデッキルーフ整備の円滑な進捗に努めます。				
	事業の進捗率(小倉駅南北自由通路のリニューアル)	5 %	51 %		
	老朽化した天井の張替等に併せて、小倉駅南北連絡通路のリニューアルを行います。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	道路計画課
						課長名	喜洲
事業名	自動車専用道路ネットワークの整備					施策番号	
						V - 2 - (2) - ①	
事業概要	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進していきます。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 1.00 人	(人件費備考)
		1,550,000 千円	千円		69,000 千円	係長 2.00 人 職員 5.00 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	24年度から25年度にかけ事業はほぼ順調に進捗しました。特に24年度においては、新若戸道路の1期の完成や黒崎バイパスの都市高速道路接続など、目みえて成果が現れた年になりました。戸畑枝光線及び黒崎バイパスについても早期完成できるように、事業進捗を図って行きます。	見直し内容 暫定供用など計画的な整備を図ります。事業費は、一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自動車専用道路である戸畑枝光線及び黒崎バイパスの整備を推進し、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 広域物流ネットワークの強化	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	戸畑枝光線の整備により、朝ピーク時において、響灘地区(安瀬)～東田地区(枝光)間の所要時間が43分から13分に短縮されます。	-	単年度目標設定なし		
	(最終目標と目標年度) 所要時間短縮 平成39年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	広域物流ネットワークの強化及び地域間のアクセス向上を図るため、事業の選択と集中により、自動車専用道路ネットワーク(戸畑枝光線、国道3号(黒崎バイパス))の整備を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 戸畑枝光線の事業進捗率	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	産業拠点や地域間のアクセス向上のため、戸畑枝光線の整備を進めます。	5 %	18 %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	道路計画課
						課長名	喜洲
事業名	主要な道路の整備(恒見朽網線など)					施策番号	
事業概要						V - 2 - (2) - ①	
コスト	事業費	27年度当初予算額 4,154,749 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考)	目安の金額 217,250 千円	課長 3.00 人 係長 6.50 人 職員 15.70 人	事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 H24～25年度にかけ、事業はほぼ順調に進捗しました。現在整備を行っている幹線道路については、引き続き事業進捗を図って行きます。	見直し内容	暫定供用など計画的な整備を図ります。事業費は、一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 本市の競争力の強化を図るため、物流拠点間のアクセスを強化し、広域的なネットワークを形成します。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 広域物流ネットワークの強化	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 —	27年度目標 単年度目標設定なし	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	恒見朽網線の整備により、新門司地区と北九州空港間の所要時間が36分から28分に短縮されます。 (最終目標と目標年度)所要時間短縮 平成37年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 物流ネットワーク構築のため、道路の早期整備を促進します。また、整備中の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備促進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 主要な街路・道路の単年度完成延長(暫定での供用を含む)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 2.5 km	27年度目標 3.2 km	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な街路・道路の整備を進めています。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	道路計画課
						課長名	喜洲
事業名	自動車専用道路ネットワークの整備					施策番号	
						V - 2 - (2) - ②	
事業概要	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進していきます。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額 1,550,000 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 69,000 千円	課長 1.00 人 係長 2.00 人 職員 5.00 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	24年度から25年度にかけ事業はほぼ順調に進捗しました。特に24年度においては、新若戸道路の1期の完成や黒崎バイパスの都市高速道路接続など、目みえて成果が現れた年になりました。戸畑枝光線及び黒崎バイパスについても早期完成できるように、事業進捗を図って行きます。	見直し内容 暫定供用など計画的な整備を図ります。事業費は、一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自動車専用道路である戸畑枝光線及び黒崎バイパスの整備を推進し、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 広域物流ネットワークの強化 戸畑枝光線の整備により、朝ピーク時において、響灘地区(安瀬)～東田地区(枝光)間の所要時間が43分から13分に短縮されます。 (最終目標と目標年度) 所要時間短縮 平成39年度	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 単年度目標設定なし	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	

活動計画	どうやって目的を達成するか 広域物流ネットワークの強化及び地域間のアクセス向上を図るため、事業の選択と集中により、自動車専用道路ネットワーク(戸畑枝光線、国道3号(黒崎バイパス))の整備を促進します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 戸畑枝光線の事業進捗率 産業拠点や地域間のアクセス向上のため、戸畑枝光線の整備を進めます。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 5 % 18 %	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	道路計画課
						課長名	喜洲
事業名	主要な道路の整備(恒見朽網線など)					施策番号	
						V - 2 - (2) - ②	
事業概要	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図ります。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 3.00 人
		4,154,749 千円	千円			217,250 千円	係長 6.50 人 職員 15.70 人
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	H24～25年度にかけ、事業はほぼ順調に進捗しました。現在整備を行っている幹線道路については、引き続き事業進捗を図って行きます。	見直し内容 暫定供用など計画的な整備を図ります。事業費は、一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	本市の競争力の強化を図るため、物流拠点間のアクセスを強化し、広域的なネットワークを形成します。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	広域物流ネットワークの強化	-	単年度目標設定なし		
	恒見朽網線の整備により、新門司地区と北九州空港間の所要時間が36分から28分に短縮されます。				
	(最終目標と目標年度)所要時間短縮 平成37年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	物流ネットワーク構築のため、道路の早期整備を促進します。また、整備中の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備促進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	主要な街路・道路の単年度完成延長(暫定での供用を含む)	2.5 km	3.2 km		
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な街路・道路の整備を進めています。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路維持課
							課長名	竹田
事業名	都市モノレール長寿命化事業(道路・街路)						施策番号	
							V - 3 - (1) - ②	
事業概要	北九州モノレールは、昭和60年に開業後、約30年が経過しており、軌道桁やそれを支える支柱等について、経年的な劣化が見られるようになっていきます。このため、劣化対策(耐震対策も含む)を行い、桁や支柱等、構造物の長寿命化や維持管理費の縮減を図り、市民の重要な交通機関であるモノレールの安全性・信頼性の確保を図ります。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.50 人	(人件費備考)	
		900,810 千円	千円		30,750 千円	係長 1.00 人 職員 2.00 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	モノレールの安全性や公共交通としての信頼性を確保します。軌道桁や支柱など構造物の長寿命化や維持管理費の縮減を図ります。	見直し内容 関係機関との協議・調整を行いながら、計画的かつ効率的な長寿命化対策事業の推進に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) モノレールのインフラ構造物(軌道桁、支柱等)の劣化対策、耐震対策の実施により、北九州モノレールの長寿命化を図り、市民の重要な交通機関の安全性・信頼性を確保します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	モノレールのインフラ構造物(軌道桁・支柱)における長寿命化対策の実施による安全確保	—	単年度目標設定なし		
	長寿命化対策として、劣化対策や耐震対策を行なうことにより、モノレールの安全・安心な運行の確保を目指します。				
	(最終目標と目標年度)平成33年度完了				

活動計画	どうやって目的を達成するか	計画的な劣化対策、耐震対策を行い、北九州モノレールの長期的な安全性・信頼性の確保に努めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	モノレールの構造物(軌道桁)における劣化対策実施区間数	114 区間	37 区間		
	モノレールの軌道桁の劣化対策を行います。				
	モノレールの構造物(支柱)における劣化対策実施本数	59 本		42 本	
モノレールの支柱の劣化対策を行います。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	道路維持課
						課長名	竹田
事業名	橋梁・トンネルの長寿命化への計画的な取り組み					施策番号	
						V - 3 - (1) - ②	
事業概要	市内には、約2,000の橋梁と42本のトンネルがあり、これらの多くは高度経済成長期以降に建設されたもので高齢化・老朽化の進展が懸念されています。そこで、長期的視点にたち効率的・効果的に管理するアセットマネジメントの考え方を取り入れ、従来の悪くなったら補修する対症療法型を改め、計画的に手を入れて長持ちさせる予防保全型に移行するため、「北九州市橋梁長寿命化修繕計画」(H22.3)及び「北九州市トンネル長寿命化修繕計画」(H25.2)を策定しました。本事業は、この計画をもとに、予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁とトンネルを増加させることで市民の安全・安心を確保します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
						コスト	
事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)		人件費	(人件費備考)	
	2,014,860 千円	千円			100,150 千円		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	橋梁・トンネル長寿命化修繕計画に基づき順調に事業が進捗しました。今後も引き続き橋梁・トンネルの長寿命化に取り組み補修補強工事を進めています。	見直し内容 平成31年度までにすべての主要橋梁が健全度ランクⅢ以上となるよう計画に沿って事業を進めていきます。 平成33年度までにすべてのトンネルが健全度ランクⅢ以上となるよう計画に沿って事業を進めていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	主要橋梁、トンネル	すべての橋梁・トンネルが予防保全の有効な健全度ランクⅢ以上となる状態			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	主要橋梁の健全度向上による市民の安全・安心の確保	—	単年度目標設定なし		
	すでに老朽化が進んでいる128橋を予防保全が有効な健全度ランクⅢ以上になるように補修補強工事を実施し、健全度ランクⅢ以上の割合を増加させます。 (最終目標と目標年度)全主要橋梁の健全度Ⅲ以上 平成31年度				
	トンネルの健全度向上による市民の安全・安心の確保	—	単年度目標設定なし		
	すでに老朽化が進んでいる8トンネルを予防保全が有効な健全度ランクⅢ以上になるように補修補強工事を実施し、健全度ランクⅢ以上の割合を増加させます。 (最終目標と目標年度)全トンネルの健全度Ⅲ以上 平成33年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 老朽化が進んだ橋梁・トンネルについて健全度向上を図るため、補修補強工事を実施し、完成を目指します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	リニューアル対象橋梁の完成数	24 橋	6 橋		
	6橋の工事完成を目指します。				
	リニューアル対象トンネルの完成数	0 トンネル	2 トンネル		
	2トンネルの工事完成を目指します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	公園管理課
						課長名	菊山
事業名	長野緑地を利用した農業体験教室					施策番号	
						VI - 1 - (2) - ②	
事業概要	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催します。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.03 人 係長 0.04 人 職員 0.05 人
		2,600 千円	千円			1,120 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	H25年度は天気に恵まれ成果指標・活動指標ともに目標を達成することができましたが、気象条件によって実施回数が左右される事業のため、イベントの周知に努め、毎年度の参加者数が2,000人を超えることを目指します。	見直し内容 ホームページ等を活用して、事業の積極的な周知に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	公園計画地を有効活用と里山・里地としての農村景観の維持	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業ではH15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	市民参加による農業体験教室の参加者数	2,243 人	2,000 人		
	H15年度に事業を開始しH20年度に参加者数が2,000人を超えました。毎年度2,000人を超える参加者を目指します。				
	(最終目標と目標年度)参加者数2,000人 毎年度				

活動計画	農業体験教室は自然相手の事業であり、毎年、天候や気象条件が異なる中で、最善を尽くして事業を進めていきます。地域の団体や幼稚園、小学校と連携して活動を行います。農業体験を行うことで、自然に親しむ機会を与え、食への関心、家族や友達とのふれあいや、一緒に作業することへの喜びが得られることを期待しています。事業の実施はNPO法人長野美し村計画実行委員会に委託しています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	市民参加による農業体験教室の実施	55 回	50 回		
	野菜作りの基本学習、土になじむことを目的としたサツマイモの作付け、芋ほりや水田でのもち米の田植え稲刈り等を行い、収穫物の試食会を開催します。ひまわり、コスモスの種まきを行い、花畑整備を行います。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	緑政課
						課長名	柴田
事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり					施策番号	
事業概要						VI - 2 - (1) - ③	
コスト	27年度当初予算額 100,023 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考)	目安の金額 23,150 千円	課長 0.10 人 係長 0.70 人 職員 2.00 人	(人件費備考)	

<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 指定管理
--	---

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 ①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ	見直し内容	①公共花壇の配置及びデザインの見直し ・小倉駅周辺など主要花壇の拡大と修景効果の低いフラワーポットの一部廃止 ・宿根植物の使用による植替え経費の削減 ②土地取得の強化

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) ①市内各所 ②都市内の緑	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育てていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 公共花壇及び市民花壇の面積	上段:25年度実績 下段:26年度実績 44,693 m ²	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	公共花壇及び市民花壇は市民が一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 46,587m ² 平成27年度	46,587 m ²			
	指標 特別緑地保全地区の買収面積	2,572 m ²			
	特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度) —	16,973 m ²			

活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 花づくりに関する講座の開催	上段:25年度実績 下段:26年度実績 10 回	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	10 回			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	水環境課
						課長名	関川
事業名	身近に自然を感じる河川整備事業					施策番号	
						VI - 4 - (1) - ②	
事業概要	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境などへの配慮が不足し、河川は人工的な水路のようになってしまいました。 そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことによって、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っています。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.50 人	(人件費備考)
		138,000 千円	千円		48,250 千円	係長 0.50 人	
						職員 5.00 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 護岸工事を行う際には、積極的に環境に配慮した整備を行っています。今後も、より一層環境に配慮した護岸の整備の進捗を図ります。	見直し内容	今後もより一層、環境に配慮した護岸の整備を行い、市民が身近に自然を感じられる河川整備事業に取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 河川	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ホタルなどの生物の生息・成育環境に配慮した整備を行うことによって、自然を身近に感じる河川を取り戻します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 環境に配慮した護岸整備 護岸工事を行う際には、生態系に配慮した整備を行うことで、自然を身近に感じる状態を目指します。 (最終目標と目標年度) —	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 —	27年度目標 単年度目標設定なし	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 河川整備を行う際に、限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 環境に配慮した護岸整備延長 護岸整備を行う際に、生物の生息・生育環境となっている水際部を保全・復元するなど、生物に配慮した護岸の整備を進めます。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 34,700 m	27年度目標 34,900 m	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	緑政課
						課長名	柴田
事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり					施策番号	
						VI - 4 - (1) - ③	
事業概要	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくりまします。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めています。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めています。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)
		100,023 千円	千円		23,150 千円	係長 0.70 人 職員 2.00 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 ①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ	見直し内容	①公共花壇の配置及びデザインの見直し ・小倉駅周辺など主要花壇の拡大と修景効果の低いフラワーポットの一部廃止 ・宿根植物の使用による植替え経費の削減 ②土地取得の強化

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) ①市内各所 ②都市内の緑	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育てていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 公共花壇及び市民花壇の面積	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	44,693 m ²		46,587 m ²		
	公共花壇及び市民花壇は市民に一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 46,587m ² 平成27年度				
	特別緑地保全地区の買収面積 特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度) —	2,572 m ²		16,973 m ²	

活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 花づくりに関する講座の開催	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	10 回		10 回		
	フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	公園管理課
						課長名	菊山
事業名	長野緑地を利用した農業体験教室					施策番号	
事業概要	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催します。					VI - 4 - (1) - ③ <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.03 人
		2,600 千円	千円		1,120 千円	係長	0.04 人
						職員	0.05 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	H25年度は天気に恵まれ成果指標・活動指標ともに目標を達成することができましたが、気象条件によって実施回数が左右される事業のため、イベントの周知に努め、毎年度の参加者数が2,000人を超えることを目指します。	見直し内容 ホームページ等を活用して、事業の積極的な周知に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 公園計画地を有効活用と里山・里地としての農村景観の維持	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業ではH15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 市民参加による農業体験教室の参加者数 H15年度に事業を開始しH20年度に参加者数が2,000人を超えました。毎年度2,000人を超える参加者を目指します。 (最終目標と目標年度) 参加者数2,000人 毎年度	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 2,000 人	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 農業体験教室は自然相手の事業であり、毎年、天候や気象条件が異なる中で、最善を尽くして事業を進めていきます。地域の団体や幼稚園、小学校と連携して活動を行います。農業体験を行うことで、自然に親しむ機会を与え、食への関心、家族や友達とのふれあいや、一緒に作業することへの喜びが得られることを期待しています。事業の実施はNPO法人長野美し村計画実行委員会に委託しています。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 市民参加による農業体験教室の実施 野菜作りの基本学習、土になじむことを目的としたサツマイモの作付け、芋ほりや水田でのもち米の田植え稲刈り等を行い、収穫物の試食会を開催します。ひまわり、コスモスの種まきを行い、花畑整備を行います。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 50 回	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点